

### 3 花 き

項 目	作 業 内 容
<p>(1) デルフィニウムの栽培管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)            デルフィニウムの栽培管理            バラの栽培管理            9月咲きキクの挿し芽と定植            シクラメンの育苗管理</p> <p>5月の天気は、数日の周期で変わり晴れの日が多く、気温は平年並か高い見込みである(4月25日高松气象台発表3ヶ月予報)。この時期の日差しは強いいため、急激な天気の変化に対応した管理が必要となる。</p> <p>本県のブランド品目であるデルフィニウムの5月の生育ステージは、概ね三番花の開花時期になる。</p> <p>この時期は品質格差が価格に大きく影響するため、日中は積極的に換気に努め涼温管理を徹底し、花茎の徒長を防ぎ茎の硬い切り花を生産することが重要となる。さらに、夜間は10をめぐりにハウスサイドは開放したままとし、強風雨時にはサイドの開閉幅の調整や循環扇等で対応する。高温で蒸しこむと花とび、花散り等の著しい品質劣化を招くため、特にこの時期の換気には十分注意した管理を心がける必要がある。</p> <p>また、曇天や雨天が続いた後の強光線は、植物体の蒸散量を急速に増加させ生育途中の花穂のしおれの原因となる。花穂が45度以上曲がると後に吸水させても軸はS字状となり真っ直ぐには戻らないので、植物体からの蒸散を抑制するために寒冷紗被覆や葉水施用で速やかに対応する。</p> <p>水管理は、気温の上昇に伴い植物の吸水、蒸散量も多くなるのでかん水量は多くするが、採花中は若干控えめにし、少量で回数を増やすことで土壤水分を一定に保つようにする。</p>



写真1 S字に湾曲した花穂

項 目	作 業 内 容
(2) バラの栽培 管理	<p>四番花を収穫する場合には、三番花の8割以上採花後からかん水量を増やすことで萌芽伸長を促し、芽数は4本/株を目安に整理する。施肥管理は、引き続き2週間に1回程度、有機質肥料をチッ素分量で5~6kg/10a施用する。</p> <p>今後は、うどんこ病、ヨトウムシ、ナメクジの発生が多くなるため、適期防除を心がける。</p> <p>5月は気温も上昇し光線も強くなるため、花卉の焼け症が発生しやすいので注意する。曇天や雨天が続いた後の急激な光線にはこまめな遮光管理を行うと共に、赤系の品種が採花時期にあたる場合には、日中の数時間を遮光管理する。</p> <p>また、この時期はうどんこ病の激発しやすい気象条件となるので薬剤防除を徹底し、発生時には夜間の温室内の湿度低下に努め病気の進行をおさえる。さらに、アーチング栽培では力枝の生育が旺盛となるため、光のあたらない古葉が多く落葉しやすく、ベンチ下は枯葉がたまる上に通気性が不良となるので、灰色かび病の発生源となる。施設内の除湿、枯葉、枯れ枝の除去、定期的な予防散布など総合的な防除が必要である。</p>
(3) 9月咲きキクの挿し芽と定植	<p>9月咲きキクの挿し芽適期は5月上旬、定植適期は5月中、下旬である。</p> <p>採穂用の親株は事前に殺虫・殺菌剤で防除し、採穂は2、3日晴天の続いた午後に実施する。10~20cm程度伸長し充実した適度な太さでやわらかい健全な芽の先端約5~7cmを挿し穂として手で摘み取る。穂は適期に採穂し新聞紙でくるみ、挿し芽時期まで冷蔵庫</p> <div data-bbox="831 1187 1388 1496" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">写真2 調整した挿し穂</p> <div data-bbox="831 1541 1388 1955" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">写真3 箱挿しによる挿し芽の状況</p>

項 目	作 業 内 容
(4) シクラメンの育苗管理	<p>で貯蔵する。挿し芽用土は、川砂、山砂、パーライトなど排水がよく無菌のものを用いる。挿し穂は下葉1、2枚を除去し、基部に発根促進剤を処理して2cm程度の深さで挿す。</p> <p>挿し芽後はハウス管理とし、十分にかん水し、直射日光を避けるために遮光率60～80%の寒冷紗を展張することで葉のしおれを防止する。発根開始まではミスト管理が望ましく、10日ほどで発根が揃うので、徐々に直射日光に慣らすとともに薄い液肥を施用する。根が2cm程度に伸長したところが定植適期である。</p> <p>定植床は土壌分析を行い、その結果に基づいて施肥設計を立てる。特に、キクの土壌適正pHは5.5～6.5なので石灰等で調整し、定植の2週間前には堆きゅう肥や基肥施用を終え、耕うん、整地する。うねの幅は120cmの高うねとし、栽培期間中に梅雨を経過するので必ず圃場内で滞水しないよう排水溝を整備する。</p> <p>5月の肥培管理は4月と同様に側芽の形成、発達を促すために、チッ素濃度で50ppmの液肥(チッ素、リン酸、カリの成分比が2:1:2)を3、4日間隔で施用する。さらに5月以降より気温が上昇するため、生育速度に応じてかん水量や間隔を増量、調整する必要がある。用土に乾湿の差をつけると、苗の老化を促進して枯葉が発生するので注意する。</p> <p>また、シクラメンにとって日中の高温は生育を抑制するため、50～70%の遮光資材を展張することで施設内温度が30を超えないように心がける。</p> <p>なお、シクラメンホコリダニは高温乾燥が続くと発生し、多発すると出荷期まで被害が続くのでこの時期から適切な防除に努める。</p>